ISSEI
一誠商事
快適な住まい探しのお手伝い

つくば・土浦 茨城県南の地域紙
常陽新聞
月～土曜発行 第816号 http://joyonews.jp

2016年（平成28年） 9月24日（土）
発行所：常陽新聞株式会社
〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-10-13
☎029-869-9800(代) FAX029-869-9836
月額購読料（宅配・電子版セット）2,080円（税込み2,246円）
本紙宅配1,500円（税込み1,620円）電子版980円（税込み1,058円）
購読申し込み 0120-104-298 1部税込み100円

きょうの天気

最高	最低
25度	20度

校外実習始まる

体験的地域学
他校からの問い合わせ増

つくば市北条の県立筑波高校（小野寺広校長）で新しい体験的地域学「つくばね学」が今年4月から始まった。ほぼ1年をかけ筑波山麓にある学校周辺の小学校、公共施設や福祉施設、民間事業所などで体験活動を行う。初年度の今年度は2年生102人全員が授業の一環として、地域との連携を重視した学習に取り組んでいる。この取り組みに対して、県内の他高から問い合わせが増えているという。今月から校外での実習が始まった。

山麓を中心に、小学校や保育所などの教育施設が7カ所、福祉施設2カ所、農家や製造工場9カ所など23カ所に分かれて行う。筑波山ガマ口や伝統文化の華道も学校で体験実習が行われる。

畑の畝たてを行う高校生＝つくば市臼井の「つくば味工房」

筑波高校「つくばね学」

つくばね学は、県の「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」により、県内初の試みとして始まった。4月に開講し、6月末までの3カ月間に、地元つくば市の歴史、文化、福祉などの授業を9回行った。中間、期末試験で知識や理解の評価も行われた。

毎週金曜日午後、2単位の授業を使う。7月に実習先について説明を受け、各自興味のある施設を決めた。9月から来年2月まで各施設で13回の実習が行われる。実習先は筑波山麓を中心に、小学校や保育所などの教育施設が7カ所、福祉施設2カ所、農家や製造工場9カ所など23カ所に分かれて行う。筑波山ガマ口や伝統文化の華道も学校で体験実習が行われる。

初の畝立て、植え付け体験

今月16日、第2回の体験実習が行われた。生徒は実習先までの距離によって徒歩、自転車、マイクロバス3台に分かれ、午後1時15分、学校を出発した。

受け入れ先の一つ、つくば市臼井で農業と自然食品の農産物加工「つくば味工房」を営む松本清司さん、てつ子さん工房には、女子生徒1人男子生徒4人の計5人が訪れた。

到着早々畑に出て、大根の「畝（うね）たて」を行った。皆初めての経験だそうだが腰を入れて上手に畝ることができた。

続いてラッキョウの植え付け。種となるラッキョウの余分な部分を切り落とし、浅い穴に順番に植えていく作業だ。

河田聖奈さんは何カ所も蚊に刺されて悲鳴を上げながら「家の近くにナシ園があって農業に興味が湧いたから」と実習先を同工房に決めた動機を話してくれた。島田大輝さんは「空気が澄んでいるこの環境が素晴らしい。体験学習は楽しい」と話した。

実習に付き添いの教員はいない。途中見回りがある。生徒たちは実習が終わり松本さんが出してくれたスイカ、イチジク、揚げもちをほおばりながら「つくばね学活動報告書」に記入し実習を終了。3時前、迎えのバスに乗り込み帰路についた。

同工房の清司さんは「人と人との繋がりで引き受けた。皆思っていたより礼儀正しくて良い子だ」、てつ子さんは「和気あいあいと作業をしながら、人とコミュニケーションをはかることは将来役にたつと思う」と話していた。

現在の2年生が進級する来年度は、3年生の一部と、新2年生全員とが取り組むことになっている。

ラッキョウの植え付けに精を出す＝つくば市臼井の「つくば味工房」

記者のつぶやき

つくば味工房での実習に同行取材した。隣りの畑ではニラの花が満開で、筑波山を臨み高校生が汗する姿が新鮮に映った。つくばね学は、地域や社会との繋がり、コミュニケーション能力の大切さなどを学ぶ、良い機会になるのではないだろうか。

（鈴木萬里子）

土浦花火 公式パンフ販売

打ち上げ順や歴史紹介

10月1日に土浦市の桜川畔で開催される第85回土浦全国花火競技大会の公式パンフレット＝写真＝が販売されている。A4版、23ページで1部100円（税込み）。

今年はワイドスターマイン「土浦花火づくし」が、幅700㍍にわたり9カ所から、6分間、約2100発打ち上げられるほか、第85回大会にちなんで7号玉85発がフィナーレを飾るのが特徴。

パンフレットでは、今年の打ち上げ順、花火の名称、審査ポイントなどを案内しているほか、1925年（大正14年）に始まった花火の歴史や過去10年間の優勝者一覧、昨年の大会を題材にした花火フォトコンテスト作品なども紹介している。

販売場所は土浦市役所、市観光協会（まちかど蔵）、土浦商工会議所、一部コンビニ店などでも取り扱っている。当日は会場内オフィシャルショップでも販売される。桟敷席券購入者には、1升に1部無料で用意される。

花火は午後6時～同8時30分まで。約2万発が夜空を彩る。

（谷島英里子）

つくば・土浦 茨城県南の地域紙 常陽新聞 http://joyonews.jp
コンテンツ盛りだくさん!!
地元ニュース スポーツ イベント サークル
世界より、まずは地元のニュースでしょ？
購読申し込み
ジョウヨウ ツクバ
0120-104-298
http://joyonews.jp

常陽新聞とは…
つくば市・土浦市を中心に茨城県南部で展開する地元密着の日刊地域紙です。
■月額購読料（電子版）980円（税込1,058円）
■月額購読料（本紙宅配）1,500円（税込1,620円）
■月額購読料（本紙宅配+電子版）2,080円（税込2,246円）
■一部売り（駅売店、コンビニ等）税込100円
■月～土曜日発行の朝刊紙（原則として日曜日は休刊）

常陽新聞スマートフォン版がもっと読みやすく!!
皆さま待望の 無料会員制度スタート! 月5本まで
有料会員も、当初3ヶ月で14円（税別）!!
お申し込みはQRコードから↑